

玉名高等学校定時制 令和元年度(2019年度)学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>
(ア) 「平成31年度(2019年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を踏まえ、本校の三校訓「至誠・剛健・進取」の具現化に努め、徳・体・知の調和がとれた全人教育をめざす。 (イ) これまで積み上げてきた本校の教育方針に基づき、教職員が一体となって家庭や地域との連携のもと、活力ある学校づくりをめざす

<b>2 本年度の重点目標</b>
<p>本年度教育スローガン 「夢実現・未来への挑戦」</p> <p>～ たくましく生きる ～</p> <p>① 生徒会を中心に学校行事の充実と生徒の主体的な学校生活への指導・助言          ② 生徒の職業観の涵養と就業率向上のための個に応じた情報の提供と学力定着の指導          ③ 保護者に対して、進路・保健だよりやHP等を通しての本校教育への理解と協力体制の構築</p>

●評価 A 良くできている。 B 概ねできている。 C あまりできていない。 D できていない。

<b>3 自己評価総括表</b>						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
項目	小項目					
学校経営	学校の組織力の向上	学校組織の円滑な運営と活性化	共通の課題解決に向け、職員間の情報の共有を図り、連携を密にする。	職員会議や各委員会、職員連絡会等での情報を周知徹底する。	A	職員連絡会での情報の共有や連携した取組ができています。更に各々の職員間での情報伝達を更に密にしていこう。
		職員研修の充実	人権教育、生徒理解(生徒指導、特別支援)、不祥事防止等を実施する。	総務部で年間計画を調整し各係が企画のうえ、全職員で実施する。	A	年間計画に従って、意義のある研修ができた。次年度も生徒理解に力を入れ課題を見据えた研修を検討していく。
	安全な学校づくり	施設の安全確保	年間2回、安全点検表による点検を実施し、確認後すぐに危険箇所を改善する。	前期、後期に各1回、総務部が企画し、全職員で実施する。	A	年2回の安全点検を全職員で実施し、改善箇所を把握することができた。
		緊急時の安全確保と緊急事態対応の徹底	危機管理マニュアルの周知徹底と安全意識の向上に取り組む。	救急救命講習や防災・消防訓練等を総務部が企画し、全職員・生徒で実施する。	B	全職員・全生徒で5月に救急救命講習、11月に消防訓練を実施した。避難に当たっては初めて放送設備を使い、使用方法などの課題を明らかにすることができた。
学校改革	生徒と向き合う時間の確保のための工夫	校務の精選等により、職員の時間外勤務時間を縮減する。また、職員の担当する校務の平準化を図り、職員の負担感を軽減する。	衛生委員会において、職員の時間外勤務の共有を行い、運営委員会等で校務改善等を検討する。校務分掌の見直しや校務の負担の多い職員への支援を全職員で行う。	B	衛生委員会を主体として、「玉名高校・玉名高校附属中学校、働き方改革宣言」を策定し、職員の意識改革及び協力体制の充実を図った。校務については、幾つかの分掌が不明確だった仕事の分掌を明確化し職員に周知した。しかし校務の平準化は完全には達成できておらず、次年度以降の課題である。	
学力向上	学習内容の充実	年間指導計画の完成度を高め教育課程に繋げる。ICT機器を活用した授業推進のために環境整備を行う	年間指導計画をPDCAサイクルで見直す。先生方に活用事例を出していただき、全職員で共有する。	B	新教育課程編成に向けて、各自が新学習指導要領の知識を深めることができた。ICT機器の利用は、年々増加している。さらに環境を整備し活用事例を共有していきたい。学習内容の充実については、改善が容易でない部分もあるが、来年度に向けて、PDCAサイクルが機能するように取り組みたい。	
		「わかる授業」と「主体的・対話的で深い学び」の実践のために、授業行改革を進める。	公開授業や研究授業を行い、意見交換会等を通して情報を共有し研究を深める。	B	公開授業週間で、意見交換が活発に行われた。授業展開、発問方法、ICT機器の活用、配付資料の内容等、大変参考になった。今後は、期間以外でも日常的に研究を深める必要がある。	
	授業の充実	研究授業の実施	生徒の意見も取り入れて「わかる授業」の推進を検証し、学習内容の充実を進める	生徒アンケートを実施し、授業や年間計画に生かせるように検証・分析を行う。	B	前期・後期、2回授業評価アンケートを実施し、自己の課題を再認識することができた。授業アンケート結果、肯定的意見は、職員は90.9%であるが、生徒は75.9%と低く、まだまだ改善の余地がある。この結果を真摯に受け止め、生徒の声に耳を傾けて、来年度以降も、授業改善に取り組む必要がある。
	個に応じた学習指導	きめ細かな指導の充実	普段の授業や「玉定チャレンジ」を通して、生徒の到達度の把握を行い、生徒の状況に応じた指導方法を充実する。	教科担当が学期ごとに指導状況を見直し、生徒各自の目標達成に向けて、工夫する。	B	公開授業や研究授業で他の教科の授業や生徒の様子等も参考にしながら、各教科で各学年の生徒の状況に応じた授業の実践に努めた。玉定チャレンジでも大学進学から資格取得まで、幅広く生徒の進路希望に応じて対応した。

キャリア教育(進路指導)	進路意識の高揚	進路目標設定の取組	玉名公共職業安定所と連携し、情報の入手および提供により、4年次生の100%の進路決定を目指す。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	B	卒業予定者9名のうち5名は昨年中に進路先が決定した。残り4名のうち1名が進学にて受験予定であり、残り3名も就職の意思は明確であり、3月までにハローワークとも連携し決定したい。
			個別面談等を通して就業を促し、生徒の就業率を70%以上にする。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	B	全職員で未就業の生徒の就業を促したが、事情により就業が困難な生徒が数名おり、4月から12月まで6割弱の就業率であった。担任と連携して面談を行う等の方策を立てたい。
			個別学習会「玉定チャレンジ」を通して、基礎学力の向上および進学指導を行う。また、各種資格の取得を促し、卒業時に履歴書に書ける資格が1つ以上あるようにする。	進路指導部および教科担当者が企画し、対象生徒の指導に取り組む。	C	5月から継続して全職員で「玉定チャレンジ」を実施した。全生徒の半数以上が参加し、商業関係の資格取得に意欲的に取り組む姿が見られた。ただし、進路目標が明確でない低学年の参加者が増えず、後期以降の参加者及び検定等の合格者が減少した。特に1・2年次生への働きかけの工夫が必要である。
		キャリア教育の推進	就職希望者で就労未経験の生徒の半数以上を目標に、全員インターンシップに参加させる。また、進学希望者は進学ガイダンスやオープンキャンパスへの参加を促す。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	B	希望者4名のうち3名が実施した。3名とも就業中であるが、将来の進路選択の参考になったようである。事前指導を行い、事業所からは高評価を得た。オープンキャンパス等には、進学希望者が積極的に参加し、進路決定に繋がった。
			職業理解講座やマナー講座、就職ガイダンス等を実施し8割以上の生徒の参加を目指す。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	A	職業講話を6月、マナー講話を7月に実施した。10月に実施した卒業生講話では、4人の卒業生が講師として自身の経験を話し、在校生にとって非常に身近で参考になる講話であった。全ての行事に、8割以上の生徒が参加した。
			年間を通して進路ニュースの発行を定期的に行い、保護者宛てに送付する。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	B	12月末までに4回の進路ニュースを発行し、成績表とともに送付した。
生徒指導	心豊かな人格の育成	基本的な生活習慣の育成	挨拶、時間の厳守、問題行動の防止を進める。喫煙等の問題行動、盗難事案の発生件数「0件」を目標に取り組む。	全職員の共通理解と共通実践で取り組む。	A	特別指導は今年度これまで0件である。特に1年次生の登校時間や中抜けといった時間の厳守に課題が残った。全職員の共通理解を再度、徹底して実践していく必要がある。
		交通安全意識の向上	登校指導を実施する。交通安全教室を実施し、交通事故事案の発生件数「0」を目標に取り組む。	生徒指導部が企画し、全職員で実施する。	A	毎日の登校指導を全職員で実施できた。二輪・四輪で通学する生徒が増えたので、交通安全教室で重点的な指導を行った。今年度は交通事故の被害者が2名であった。啓発を継続したい。
		自主自律の精神の育成	学校行事に関して、生徒が主体的に取り組めるように、生徒会執行部を中心として、各種行事の企画・運営を充実させる。	生徒指導部と生徒会が企画し全職員・全生徒で取り組む。新入生歓迎行事やレクレーション等の行事の企画を生徒が主体性を持って取り組めるように助言する。	A	今年度も生徒会を主体に、クラスマッチや年度初めの新入生歓迎行事、1月には生徒会全体企画等、各種行事は滞りなく実施できた。定通文化大会では生徒たちが主体性を持って活動してくれた。
人権教育の推進	「命を大切に する心を 育む」指導 の充実	職員研修の推進	年間計画を作成し、全職員で研修に参加することで、人権意識の向上と適切な対応能力を身に付ける。	人権教育係が立案し、全職員で取り組む。	A	校外の研修会や全日制と合同で開催される校内研修会などで、研修を深めることができた。
		HR活動、教科指導における取組の推進	HR活動、各教科における人権教育の取組を策定する。	教頭、人権教育係を中心に全教科全領域で取り組む。	B	各教科内で十分に実施できている。HRでの時間の確保が難しく今後計画の見直しを行いたい。
		家庭への啓発の推進	人権教育講演会等の案内や定時制保護者会等における講話で啓発を進める。	人権教育係が立案し、学校全体で取り組む。	B	保護者会で講話や説明を実施した。様々な機会に啓発活動を行うようにしたい。
		指導内容の工夫と充実	「命を大切に する心」を育む指導プログラムに基づいて指導を実施する。	人権教育係と生徒指導部で企画・立案し、学校全体で取り組む。	A	各HR、教科と連携を取り、自分だけでなく他者への思いやりの気持ちを高めると同時に、自他の命について深く考え、大切にしようとする心を養う機会となった。
いじめの防止等	いじめ問題への対策	いじめが起きないための日常的取組の推進	生徒が互いに思いやり、認め合える人間関係を醸成し、いじめを見逃さない体制づくりを推進する。いじめ事案の発生件数「0」を目標に取り組む。	生徒指導部と人権教育係で企画し、学校全体で取り組む HR活動でいじめ問題について取り上げる。 いじめ発見のためのアンケート等を実施する。	A	心のアンケートを実施して、全校生徒のいじめ問題の実態を把握することができた。今年度も校内についてのいじめは、0件であった。今後も、いじめを見逃さない体制を再確認して、全校集会等での呼び掛けなど、啓発にも努めたい。

いじめの防止等	いじめ問題への対策	職員の資質能力の向上	いじめ、カウンセリング、生徒理解やネットいじめ等に関する校内研修を推進する。	生徒指導部、人権教育係及び保健環境部で連携し、学校全体で取り組む。	A	特別支援教育と連携して、生徒理解について共有するための研修を行うことができた。各学校行事も生徒と一緒に取り組むことで、学校全体としてよい取り組みができた。
		家庭への啓発の推進	人権教育講演会等の案内や定時制保護者会等における講話で啓発を進める。 いじめ発見シートの説明を行う	生徒指導部と人権教育係で企画し、学校全体で取り組む。	B	保護者会でいじめのサイン発見シートを配付して説明を実施した。家庭での小さな変化も見逃さないように啓発を行った。
特別支援教育	特別な支援を必要とする生徒への適切な対応	個々の生徒の正確な実態把握と支援	個に応じたフェイスシートを作成し、それに基づき、支援計画、指導計画を作成し活用する。各種研修への参加や校内研修を推進する。	教頭、特別支援教育コーディネーターが中心となり、連絡会等を利用して、困り感をもつ生徒を全職員で支援する。	B	支援を必要とする生徒が増え、対応が大変であったが、支援計画の作成、各種研修会への参加もあり、支援の必要な生徒への対応ができた。
保健環境指導	健全な心身の育成	心の悩みを持つ生徒の把握	担任や各部と連携し面談の機会を増やす。	保健環境部が企画し、全職員で実施する。	A	職員連絡会や生徒理解研修で、職員の共通理解を深め、担任、それ以外の職員との連携によって実施できた。
		健康診断後の治療率向上	検診結果を基にした自己の健康の保持増進や治療の促進を行う。	保健環境部が企画し、全職員で取り組む。	B	SHRや生徒集会で、繰り返し呼びかけることで、健康診断後の治療や検査の受診につながった。
		啓発活動の推進	保健だより（環境教育を含む）を年5回発行する。	心のケアの方法や生活習慣調査結果などを盛り込み定期的に発行する。	B	長期休業前後や季節に応じて、1月までに、3回の発行ができています。健康に対する啓発の契機になっている。
		外部講師による講演会の実施	薬物乱用防止教室（年1回）や性教育講演会（年1回）を開催する。	保健環境部が企画し、全職員で実施する。	A	いろいろな機関を利用して、外部講師による講演会を実施することができた。
	環境美化と環境教育の推進	環境美化の推進	職員清掃日（毎週月曜）、定期清掃日（毎週木曜）を定める。	保健環境部が企画し、全職員・生徒で実施する。	A	職員清掃・生徒清掃も定着して実施できた。ただし、学校評価アンケートでの生徒の評価が低かったため、ゴミの分別等に力を入れて改善していきたい。
		学校版環境ISOへの取組	学校版環境ISOを周知し、実践できるように工夫する。	保健環境部が企画し、全職員・生徒で取り組む。 生徒保健委員会で牛乳パック等の回収を行う。	B	4月当初に企画し、全職員・生徒で取り組むことができた。牛乳パックのリサイクルも継続して回収できている。
地域・家庭との連携	情報の発信	学校HPの充実	学校HPの行事ごとの更新と内容の充実に取り組む。	HP更新係が立案し、原稿作成や校正等に全職員で取り組む。	A	写真撮影からホームページ更新、行事アルバムの校内掲示等、リアルタイムに掲載することができた。保護者へのHPアクセスの広報活動が必要と考える。
	連携の強化に向けた取組	保護者との連携	保護者会（4月、7月）の内容の精選を図り、出欠の返答ならびに出席率を前年度より向上させるよう工夫する。	総務部が企画し、全職員で取り組む。	B	7月の定時制保護者会は、生徒数の増加もあり、出欠表の回収率、当日の参加率とも前年を下回った。今後は普段からの家庭との関係づくりが課題である。
		地域との連携	外部から講師を招き、保護者とともに思春期の生徒への対応や情報モラル教育等についての研修を実施する。 防災型コミュニティ・スクールの活動をとおして、地域との連携を深める。	保健環境部、生徒指導部、情報管理部が連携して計画し、7月開催の定時制保護者会で実施する。 学校運営協議会において、大規模災害時の連携・対応マニュアルを検討する	A	7月の保護者会で、玉名若者サポートステーションの職員を招き、講演を行った。在学中または卒業後、連携が必要と思われる生徒もおり、今後より多くの保護者にそれらの機関についての情報を提供し、また学校との関係を深めていく必要がある。学校運営協議会は、3校合同で実施し、当番校の玉名高校の施設・設備の紹介ができた。

#### 4 学校関係者評価

今年度は、生徒数の増加に伴い、特に1年次生（12人）の一人一人に十分に時間を取って対応することが難しく、学校評価アンケートの各項目において、保護者、生徒ともに肯定的な数値が下がってしまった。しかし、高学年、特に4年次生の肯定的評価は非常に高く、それは、職員と生徒、及び保護者との連携がきちんとなされ、生徒個々に対する丁寧な指導やきめ細かい関わり、着実な支援が行われているためであったと思われる。また、学校行事にも様々な工夫がなされ、本校定時制が生徒にとって登校したいと思える学校であり、そのことがここ数年の落ち着いた学校生活や良好な出席状況等に繋がっているであろう。和やかな雰囲気の中で温かい教育活動がなされていると感じた。

学校からのアンケート分析で指摘があったように、今年度、保護者アンケートに厳しい意見があったのは、保護者のアンケート回答率がやっと5割を超え、それに伴い逆に学校に対する幾つかの意見が明らかになったと前向きに考えている。今回の保護者の意見を精査し、保護者の要望に応えることができるように前向きに対応してほしい。また、更に保護者の学校や生徒の学校生活への関心が高まるような取組にも取り組んでほしい。

支援が必要な生徒や就労へのハードルが高い生徒が増える中、職員の負担は益々増えているように感じる。先生方の健康と、併せて負担感の軽減や働き方改革にも取り組んでほしい。全般的にマンパワーの不足を感じるため、保護者は学校の応援団として力になれる部分は協力していきたい。

情報発信については、ホームページの更新の回数やスピードが素晴らしいといつも拝見している。定時制の登校指導が、全日制・附属中学校の下校指導を兼ねる形になっており、たいへんありがたく思っている。今後も高校全日制・定時制、附属中学校と3つの総合力を生かした学校作りを期待する。

## 5 総合評価

今年度も全体的に遅刻・欠席等が少なく、落ち着いた学校生活及び授業態度であった。しかし、深夜までゲームをしたり食事もしっかりと摂っていなかったりなど、生活のリズムを崩す生徒もいた。早めに保護者と連携を取ることで、欠席や遅刻が減っていき、生活のリズムも整ってきている。今後も睡眠や食事も含めた基本的な生活習慣について、保護者との連携を継続していきたい。

「授業の充実、授業改革」については、研究授業や公開授業、授業評価アンケート等を実施し、職員の授業の工夫・改善と指導力の向上を図ったが、残念ながらまだまだ生徒の授業評価アンケート、職員の自己評価ともに厳しい評価であった。今後は、新しい学習指導要領を見据えながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研修・研鑽を重ね、今後の授業内容の充実に努めたい。

「特別な支援の必要な生徒への対応」については、一部の生徒に対しては、外部の支援機関と協力し、支援の体制を作ることができたが、年々支援が必要な生徒が増えてきており、一人一人への対応が十分にできているとはいえない状況になっている。本校定時制は、生徒数は少ないが多様な生徒が在籍しており、授業・進路指導・個別の支援の全てにおいて多岐にわたる丁寧な対応が必要であり、職員の協力体制や指導・支援体制の整備が急務である。

以下の三点については、今年度、生徒数や新入生の増加による、特に低学年の指導に関する反省事項である。

まず、「生徒指導」については、職員の日頃の人権教育の視点に立った指導の成果で、学年が上がるにつれて、生徒の周囲に配慮することができる言動に表れはじめている。イライラ感や無気力感を持っていた生徒も徐々に自分の感情をコントロールした態度や発言ができるようになり、周囲と調和しようと努めることができていく。また、他者を受け入れる寛容さも育ってきており、落ち着いた学校生活につながっている。しかし、新入生については、大人数のせいもあり、なかなか安定した人間関係を構築するのが難しく、落ち着いた学校生活になるのに時間がかかった。

次に、「個に応じた指導」については、年間を通して「玉定チャレンジ」を実施し、進路希望に対応した個別指導や就職に向けた資格取得講座を実施することができた。しかし、後期になって受講者や検定合格率が下がってしまった。低学年の進路意識を高めることができなかった事が原因であると考えられる。

最後に、「進路指導」については、担任と進路指導部を中心とした全職員で関わり、今年度は大学進学や学卒求人での就職する生徒もいたが、就労経験のない生徒等の就職がなかなか決定しなかった。精神面や体調等で、在学中の就労が難しい生徒もいるが、低学年のうちからインターンシップや職業理解講座等を通して就労意欲の向上を図り、短時間・短期間でも就労経験を積むことで卒業時の進路決定に繋がる継続的な指導が必要である。

生徒会の活動を通して、学校行事等への生徒の積極的な関わりを促し、生徒が主体的に参加できるよう行事内容の工夫・改善を行っている。年々行事等への参加率も向上し（90%以上）、生徒全員が参加した行事も増え、行事を楽しんでいる生徒も増えてきた。この活動の様子をホームページに適宜掲載し、保護者、地域へ多くの情報を発信することができた。

中学校との連携については、昨年度から1月に熊本県内の定時制・通信制高校のPRチラシを中学校に配付する際、本校定時制の説明を行い、受検希望者と保護者に、是非授業見学に来ていただくようお願いしている。その結果、昨年度から増加した中学生・保護者・中学校職員の授業見学は、今年度は更に増え、受検希望者も昨年度に続き増加して、ほとんどの受検者が授業を見学に来てくれた生徒であり、入学後のミスマッチも減少している。昨年度以上に、地元の中学校の本校の定時制教育に関する理解が確実に深まった。

学校評価表の評価については、本年度は昨年度以上に高い数値であり、ほとんどの評価がA、Bの評価であった。しかし、家庭等の問題を抱えた生徒の事案に対し、組織的に十分対応しているが、なかなかすぐには解決できないことも多く、関係職員による厳しい自己評価もあったが、職員の組織的な関わりにより、生徒及び保護者との良好な信頼関係を築くことができた。職員の自己評価が低い項目に関しては、職員の危機感の表れと前向きに捉え、また学校評価アンケート等で、明らかになった課題を精査し、更に次年度の取組に活かしていきたい。

## 6 次年度への課題・改善方策

第1に継続的な課題として「授業改善」と「特別な支援の必要な生徒への対応」である。授業については、授業評価アンケートにおいて評価の低かった「自分の考えや意見を出しやすい授業」、「ICT機器を活用した授業の工夫」等の項目を中心に、特に来年度は、新学習指導要領における令和4年度の教育課程の編成と並行して、「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた授業改善に取り組んでいきたい。また、支援が必要な生徒への対応も、職員研修等で学んだユニバーサルデザインの視点に立った授業での配慮を、全職員で実践していく。次年度も生徒理解研修等を通して、個々の生徒に対する職員の共通理解を深め、適切な支援を行っていく。また、職員研修（発達障害の当事者に学ぶ、障害者の就労等について）を実施して、職員の特別支援教育への理解を深めたい。

第2の課題は「進路目標の実現」である。ここ数年本校定時制は、生徒全般の学校生活は落ち着き、出席率も上がり、授業や行事等に積極的に参加し、自分の将来の目標をしっかりと持つ生徒が増えてきている。次年度は、この状況を更に進め、生徒の情報を職員全員で共有し、今年度同様きめの細かい対応をすることで、特に低学年から進路目標を明確に持たせ、その実現に向けて、インターンシップ等の就労体験や玉定チャレンジ等への積極的な参加を促し、低学年からの継続的な進路指導を組織的に実践して、生徒の進路目標の実現に繋げていきたい。

第3の課題は「保護者との連携、中学校との連携」である。行事等に関する生徒及び保護者への連絡は、書面だけでなく担任からの電話連絡も行われている。また出欠状況についても、担任が保護者と電話連絡を取っており、生徒の学校での様子を保護者に伝えている。しかし、生徒と保護者との関係が良好でない場合等は、生徒の出席状況等の改善に繋がらないことも多い。担任、学校と保護者との連携を更に密にするためには、保護者会等の学校行事へ積極的に参加していただくことや学校及び家庭での面談の機会を多く持つことが大切である。次年度は、そのような保護者との連携の機会を更に増やしていきたい。中学校との連携については、ここ数年、生徒・保護者・職員の授業見学が増えており、志願者も増加しており、定時制教育へのニーズと理解が進んでいる。今後も、中学校との連携を更に充実させ、積極的に中学校への情報発信や連携を心がけ、更に本校定時制教育への理解を広げていきたい。